

事業の概要

- 1. 派遣期間 令和元年7月23日（火）～8月6日（火）15日間
- 2. 派遣先 アメリカ合衆国カリフォルニア州バーバンク市
- 3. 派遣者 中学生7名、高校生5名、引率者2名 合計14名
- 4. 宿泊形態 ホームステイ
- 5. 事業日程

月日	曜日	内 容
4/1	月	派遣学生募集開始
4/26	金	派遣学生募集締め切り
5/18	土	派遣者選考 （国際交流センター）
6/1	土	第1回派遣学生研修会 （太田市役所南庁舎大研修室）
6/15	土	第2回派遣学生研修会 （太田市役所南庁舎大研修室）
6/22	土	第3回派遣学生研修会 （太田市役所南庁舎大研修室）
6/29	土	第4回派遣学生研修会 （太田市役所南庁舎大研修室）
7/13	土	第5回派遣学生研修会 （太田市役所南庁舎大研修室）
7/23	火	出発式 （太田市役所4階 庁議室） 太田市役所出発 （10時00分） 成田空港発 （17時05分 UA33便）
8/5	月	バーバンク出発 （7時30分） ロサンゼルス国際空港発 （11時55分 UA32便）
8/6	火	成田空港着 （15時10分） 太田市役所到着 （19時30分）
8/21	水	帰国報告会 （太田市役所4階 庁議室）

現 地 日 程

月日	曜日	内 容
7/23	火	到着 歓迎パーティー ホストファミリーと一緒に帰宅 市長表敬訪問
7/24	水	バーバンクツアー 警察署・消防署見学 ニコロデオン・スタジオツアー
7/25	木	UCLA 大学訪問 Getty ミュージアム見学
7/26	金	リトル・トーキョー 散策 ダウンタウン・ロサンゼルス 散策 プールパーティー
7/27	土	ファミリーデー
7/28	日	ファミリーデー
7/29	月	ディズニースタジオツアー グリフィスパークで乗馬体験 ホストファミリー交換ピクニック
7/30	火	サンタ・モニカ・ビーチ
7/31	水	ラ・ブレア・タール・ピッツ博物館 見学 ファーマーズ・マーケット 散策 ザ・グローブ ショッピングセンター 散策
8/1	木	カリフォルニア科学センター・IMAX 見学
8/2	金	ディズニーランド
8/3	土	ファミリーデー
8/4	日	ファミリーデー さよならパーティー
8/5	月	日本へ出発

団長

プログラム中に訪れた日系アメリカ人歴史博物館でのことだ。日本語ガイドが付く関係で、日本の学生たちとアメリカの学生たちは別のグループで博物館内を回った。日本の学生たちは、私を含め多くの日本人がそうするように、静かにガイドさんの説明を聞き、貴重な資料を見学していた。その一方でアメリカの学生たちのグループでは、ガイドさんの説明に対して学生たちが質問をし、時には自分の意見を表明して議論をしていた。この見学方法の違いによって、私は文化や国民性の違いを明確に感じ、プログラムを通して特に印象に残った出来事となった。

ホストファミリーにグリフィス天文台へ連れて行ってもらった時にも同じことを感じた。天文台では天体に関する教育的な展示物が多くあったが、ホストの子供たちはその内容について父親と熱心に議論していた。子供のころ、美術館や博物館では「見るだけ」で過ごしていた自分との大きな違いを感じた。

「日本の漢字である<人>は、2人の人間が寄り添い支え合って成り立っているが、同じ意味合いの英語の<I>では、天(神)の下に1人の人間が自立している様子を表している」プログラムの中で訪問したロサンゼルス浄土宗本院の方から私たちにこのようにお話しいただいた。この言葉は、日本人とアメリカ人の物事に対する根本的な考え方や精神の違いが垣間見え、私が感じたカルチャーショックは単に育ち方や教育だけの問題ではないと思えた。

彼らの「自立」を感じる場面は多々あった。とある日の夜に、ホストファミリーたちとテレビのニュース番組を見ながら、健康保険制度や選挙制度、銃規制、租税制度など、お互いの政治や行政について議論した。ホストファミリーは、皆保険制度でないアメリカの仕組みを説明しながら、自分と家族のために保険の永久資格を得るまで今の会社で働くと話していた。また、ホストブラザーは、子供のころから映画監督になることを志しており、よりレベルの高い芸術学校への入学試験のため、父親の指導を受けながら忙しく自主映画を製作していた。彼らは自分の未来に対して責任をもって自立しているように見えた。一方で、小さいころは親や先生、今は上司や会社任せになりがちな自分自身を省みると、多少の恥ずかしさを感じた。

数えきれないほど英語でコミュニケーションを取った2週間だったが、現地の方々と話しをしていると、「自分の意見」「相手の意見」を大事にしているのが良く伝わってきた。アメリカでの生活においては、自分の思いを相手に伝えなければ何も始まらなかった。「自分の意見」を相手と議論するためには、自分自身に責任を持って自立することが必要だと感じた。

しかし、こうした日本とアメリカの違いは、どちらが良い、悪いということではないと思う。日本の学生たちは、現地のホストファミリーに感謝を伝えるために、出発前からソーラン節などのダンスを練習し、さよならパーティで披露した。その後、お返しとしてアメリカの学生たちによる歌やダンスのパフォーマンスがあった。集団で魅せる日本の学生たちと、個人技で魅せるアメリカの学生たち。どちらのパフォーマンスも会場を大いに湧かせたからだ。

今回のプログラムは、観光旅行では決して得ることのできない、様々なことを学べた濃厚な2週間の異文化交流であった。しかし、結局のところ最後に私が感じたことは、人種・国籍・環境・言語・文化・国民性が違えども、バーバンクの皆さんと私たちは、面白いときは笑い、悲しいときは泣いて、美味しいものを食べ、ジョークを言い合い、家族を大切にする、同じ人間だということだった。太田市とバーバンク市、物理的な距離は遠くても、たくさんの暖かい繋がりを持つことができた。今後もこのプログラムが

継続して、多くの人々の絆がいつまでも続いていくことを望みます。

副団長

この2週間のプログラムの中で、私はたくさんの人と出会い、バーバンクならではのおもてなしを受け、その度にあたたかい心に触れ、いつも感謝の気持ちでいっぱいになった。私にとってアメリカ滞在はこれで3回目になるが、今回、最も多くの人と関わり、最も多くの素敵な思い出を作ることができた。それはなぜなのか、振り返ってみたいと思う。

私はバーバンクで1週間ずつ Callahan 家と Giffin 家にお世話になった。大人のホームステイは何かとお互い気を遣うだろうと不安に思っていたが、彼らはとても気さくで、私の滞在を歓迎してくれた。私はアメリカで普通の生活がしてみたかった。彼らは「自転車に乗りたい」、「学校に行ってみよう」という私の希望を叶えてくれた。私は Giffin 家の娘さんのサッカーの練習を見に行き、いかにも保護者かのように応援した。日本の学生と同じようにスポーツに汗を流し、レギュラー争いや試合の勝敗を気に病む娘さんの姿に幸運を願わずにはいられなかった。また、週末に地元の人々に愛されるオーケストラのコンサートに連れて行ってもらい、普段から気軽に芸術を楽しむアメリカの人の多さに驚いた。貴重な機会を与えてくれたホストファミリーだったが、何より私の話を一生懸命理解しようとしてくれたことが私は一番うれしかった。私の話を聞きながら“I understand.”と何度も言ってくれた。私が言葉に詰まった時、簡単な英語に直し、ちゃんと理解しようとしてくれるのは本当に有り難かった。私は、人が自分に興味をもってくれることがこんなにうれしいことなんだと改めて感じた。ホストファミリーと、家族や仕事のこと、子育て、食生活、日本の政治や教育、文化、様々なことについて話した。遠い親戚からもらったという日本のゲームをしたり、私がピアノが弾けるのを知って一緒に楽器を弾いたり、私の作った日本料理を食べたりと、どれもこれも心に残る本当に楽しい時間だった。

共に楽しい時を過ごしたのはホストファミリーだけではない。バーバンク市長をはじめとするバーバンク市議会、バーバンク市役所、姉妹都市委員会の方々、プログラムに参加してくれたバーバンクの生徒たちと本当にたくさんの方々にお世話になった。皆、日本から来た私たちをそれぞれの得意分野を生かしながらもてなしてくれた。特に、バーバンクの引率者とはお互いに協力して日中のプログラムを遂行しなくてはならず、岡本さん(日本からの引率者)と私はバーバンクの引率者と常に行程の話をし、時には生徒達のよりよい経験のためにいろいろな相談をした。その度「大丈夫よ。」と言っていただき何度安心したことか。そして、私たちが彼らにお礼を言う場面が何度あったことか。私たちには見えないトラブルもあったことだろう。しかし、彼らは「子どもたちが好きだから」、「このプログラムが好きだから」と終始笑顔で、参加者の安全、楽しい滞在、子どもたちの国際交流のために力を尽くしてくださった。子どもたちの成長を願い応援する大人として、この真のボランティア精神を見習いたい。

多くの心優しい人々のおかげで、参加者の生徒達は大きく体調を崩すこともなく、ほとんどのプログラムに参加することができた。生徒達はそれぞれのスタンスでバーバンクの方々との親しい関係を築き、心の交流ができたものと思う。報告会では、英語習得に意欲をかき立てられただけでなく、話題となる知識の必要性、バーバンクとつながりを継続したい気持ち、将来への希望など、様々な感想が聞かれたことがその証拠である。今回の経験を糧として、生徒達が国際人として大きく羽ばたき、バーバンクと太田の絆がより深まり、より長く続くことを願っている。

最後に、この素晴らしい機会を与えてくださった太田市国際交流協会の方々、現地姉妹都市委員会の

方々、バーバンクでお会いした全ての方々へ感謝申し上げます。

2019年度バーバンクホームステイにて学んだこと

太田市立城東中学校 1年女子

大好きな英語を使い外国の人とコミュニケーションを取りたい。海外でホームステイをしてみたい。いつからか思い描いた夢が、こんなにも早く叶うとは思っていませんでした。

偶然目にした小さな広告。太田広報の「国際交流事業」が目にとまり、「自分がやりたい事はこれだ！」と気持ちが高ぶった事を今でも思い出します。私はそれまでも興味がある事には沢山のチャレンジをしてきましたが、今回のチャレンジは間違いなく今までで一番大きなチャレンジで、手元に合格通知が届いた時の喜びは忘れられません。

一緒にホームステイに参加する友達はとても英語が上手で、研修会に参加し出発準備をするうちに、自分の英語に自信が無くなり不安になりました。自分には何が出来るだろう？そう考えた時、せっかくのチャンスを無駄にせずに、自分の出来る限りの事をしよう。それには、相手に伝えようとする気持ちを大切に、「自分から積極的にコミュニケーションを取る事」を目標に頑張ろうと思いました。

ホームステイ先のホストファミリーの方々はとても親切で、いつでも私の事を気遣ってくれました。おかげで何の不自由もなく毎日を快適に過ごす事が出来ました。最初は英語を話すスピードについて行けませんでした。耳が慣れてくると聞き取れる様になり、ファミリーの会話に入っていく事が出来る様になりました。会話の中で自分の意見が上手に表現出来ない時は、単語を調べたり、ジェスチャーや絵を書いたりして何とか想いを伝える事が出来ました。予想通り、自分の英語力の低さを実感しましたが、出発前に決めた目標を忘れずに実践する事が出来ました。

アメリカの生活や文化で日本と大きく違うと感じた所は、全てが大きいという事です。国土が大きいのはもちろんですが、食文化に関しては日本でのシェアサイズがアメリカでは1人前で、そのボリュームに驚かされました。体も大きい人が多いので、洋服もとても大きなサイズまで販売されていました。そして何よりも2週間の生活で実感した事は、心が大きいという事です。信号の無い交差点での譲り合う心や、レディーファーストの心、自身の主張だけでなく、他人の意見も尊重する認め合う心。これらは多民族国家で生活する中で、自然と身に付く心なのだろうと感じました。

もう1つ感じた事は、英語が話せる事と実際に会話が出る事は別であるという事です。思っている事をすぐに頭の中で英語に変換し、相手に伝え会話を成立させる事は難しく、ホームステイ中も話すタイミングを逃してしまう事が何度もありました。英会話を身に付けるには学校で学ぶ英語だけでなく、ヒアリングや英会話を実践し、「使える英語」を身に付ける必要があると実感しました。

最後に今回の国際交流事業に関わる全ての人々に感謝の想いを伝えたいと思いました。初めての海外やホームステイなど多くの不安がある中、私のチャレンジを応援してくれた家族。研修会やホームステイで解らない事を色々教えて頂き支えて頂いた団長の岡本さん、副団長の半田さん。そして私達を受け入れて下さったバーバンク市、ホームステイ先のホストファミリーの皆さん。言葉では言い表す事が出来ないくらい感謝の気持ちでいっぱいです。本当に有難うございました。ホームステイをきっかけに出会う事が出来た友達と、この夏の思い出は私の一生の宝物です。今回のホームステイで学んだことや経験を活かし、これからも国際交流に積極的に関わって行きたいと思います。

太田市立北中学校 2年男子

今回の姉妹都市交換留学は、自分にとって貴重な経験になり、また、自分の悪い所や良い所などを見直す良い派遣事業となった。

バーバンク（アメリカ）には日本と似ているところもあり違うところもあった。似ているところだと、自動車がとても走っていたところや山が周りにあるところ。しかし違うところは、走っている自動車がベンツやBMWなどの高級車がうじゃうじゃいたところだ。その中で、日本の自動車のトヨタやマツダ、日産、スバルは1日24～40台くらい街で見かけた。また、日本よりもホームレスの人たちが町中にいて、貧富の差が激しいと感じた。このことについては、今後、自分で調べてみようと思う。また、アメリカの食べ物や、日用品が日本の物よりも大きく、特に大きかったのはハンバーガーやホットドッグ。大きくてポテトまで行きつけそうになかったが、「残すのも悪いなー」と思いながら頑張って食べた。また、大きいだけじゃなくとてつもなく美味しかった。特に美味しかったのはマスカット。「砂糖入っているじゃないの」っていうくらい甘くてとても美味しかった。アメリカに5年くらいいたら150センチメートル台の僕も200センチメートルくらいにはなっているかもしれない。

すべてが貴重な体験だった。行く前、一つ自分の中で不安だったのが、人見知り。僕は初めての人と関われるまでに4日～7日かかるけれど僕は着いた日の夜からホストファミリーと仲良く話したり子供たちと「マジック」というカードゲームをしたり手遊びをしたりできた。それは、ホストファミリーが積極的に話してくださって、「頑張んなきゃ」と思い接していくうちに人と話すことが楽しくなり他のホストファミリーたちとも話すことができとても良い体験になった。また、現地に行かないと体験できないこともたくさん体験でき、充実した夢のような毎日だった。バーバンク姉妹都市交換留学関係者の方たちにはとても感謝している。また、僕をバーバンクに送り届けてくれた親には感謝している。15日間ありがとうございました。

友好都市バーバンクが私に教えてくれたこと

ぐんま国際アカデミー中等部 2年女子

私は、今回の留学で様々なことを学んできました。何もかもがとても刺激的で、お伝えしきれないくらいたくさん経験をしてきました。その中で、映画産業、環境問題、歴史、思いやりについて、お伝えします。

バーバンク市は、映画産業がとても発達しているところでした。私の一週間目のホストファザーはカメラマンで、これからアメリカで放送予定のテレビドラマの撮影をしていました。私は特別に、その撮影現場に連れて行ってもらいました。その他、ディズニースタジオや、ニコロデオンの見学も出来て、私たちが親しんできたアニメやドラマ、映画がここから生まれたかと思うと、とても感動しました。働く人達の環境も整っていて、自由な発想が思いつきやすくなるような職場、働きながら楽しめるような工夫、これはとても参考になりました。

また、バーバンク市では環境問題に積極的に取り組んでいました。お店ではレジ袋を使わないで、自分で持ってきたエコバッグに買った物を入れます。ホストファミリーは、どこのお店へ行ってもそうしていました。ホストマザーは、私にもエコバッグを貸してくれて、買い物をした時にレジ袋は使いませんでした。日本でもかなりレジ袋削減に力を入れてきていますが、コンビニなどまだまだ、レジ袋に入れてもらえるお店はたくさんあります。バーバンク市の方が、より徹底していました。また、ホストバディやそのお友達は、ペットボトルの飲料水を気軽に買っている姿は見られませんでした。常に家から用意してきたマイボトルを持っていました。海洋汚染の原因である、プラスチック製品の利用を、出来るだけおさえる努力が見受けられました。

今回私の一番興味深く印象に残った場所は、ダウントウンLAでした。アメリカの80年代を思わせるような建物や、街並み、そして中国風の建物や、メキシコ風の建物まで様々な国の建物がありました。その中の一つ、全米日系人博物館を紹介します。そこは、日系アメリカ人の方々の歴史、そしてその苦労などが分かる場所です。実際に日系アメリカ人のなんの罪もない方々が入られた、収容所の一部が展示してありました。たくさんある中、ある一つの収容所はアメリカのとある砂漠に位置し、とても簡単な造りで、どんなに暑い時でも寒い時でも我慢しなくてはなりませんでした。その中で一番苦しんだものがトイレ事情だったそうです。なんとトイレとトイレの間に境がありません。二人で布団などを持って隠しあいながら利用していたと聞いた時、私は日系アメリカ人の方々がどんなに辛い思いをしたのかと思いました。このような事があったということを、私たちは決して忘れてはいけません。戦争は絶対にやってはいけない事だと痛感しました。

この留学期間の中で、私は14歳の誕生日を迎えました。ファミリーデーの1日は、プールパーティーをするという予定は知ってましたが、まさか、私の誕生日まで祝ってもらえるなんて予想もしていませんでした。バースディケーキと共に、そこにいた皆さんに”HAPPY BIRTHDAY TO ARISA!!”と祝ってもらいました。このパーティーで、初めて会った人たちにも私のことを祝っていただき、また、自分から積極的に話をしたり、プールで遊んでいるうちにお友達を作ることができました。その時にホストマザーに作ってもらったジャーマンポテトはとびきりの美味しさだった事を今でもよく覚えています。こんなにも私の事を親しく思ってくれて心遣いをしてもらえるなんて、幸せだなと思いました。ホストファミリーの心温まる対応に感謝しました。

この留学経験は、私にとって多大なる影響を与えてくれました。素晴らしい仲間にも出会え、この留学に参加出来たことを誇りに思い、これからの将来にこの経験をぜひ生かしたいと思います。

太田市立木崎中学校 3年女子

私はこのバーバンク派遣事業を通して、学んだことがあります。それは、人とコミュニケーションをとるには、本当に相手と話したいという姿勢をとることが大切だということです。私がこのことに気付けたのは、ホストファミリーや一緒に行ったメンバーのおかげだと思っています。

私の一週間目のホストファミリーは、両親と18歳の女の子の三人家族でした。お父さんは仕事で家にいないことがほとんどだったので、お母さんとその女の子が主に私の相手をしてくれました。しかし私

はあまり上手に英語を話すことができず、相づちを打つのが精一杯でなかなか会話になりませんでした。ネイティブの人の話すスピードについて行けず、最初の数日間楽しむというよりも、緊張と不安でいっぱいでした。

しかし、他のメンバーとバーバンクの人たちが楽しそうに話しているのを見て、「私もあんな風になりたい！！このままではいけない！！」と強く思い、翌日から、聞かれたことに対してただの相づちにならないように、少しだけでも長く答えるようにしました。さらにホストファミリーと家にいる間、積極的に質問することを心がけました。そのせいか、ホストマザーの作ってくれた美味しいピーチパイのレシピをもらうことができました。文

法（時制その他）通りにこなせたかどうかはわかりませんでしたが、自分の思ったことを相手に伝えられた、という達成感はとても大きなものでした。またホストファミリーは本当に優しく接してくれて、いろいろな場所へ連れて行ってもくれました。一緒に見たロサンジェルの夜景は忘れることができません。とても幸せな時間でした。

二週間目のホストファミリーは、お父さんが二人で14歳の女の子がいました。彼女とは年が近かったせいか、とてもは話しかけやすかったです。また、お父さん達もとても親切にしてくれました。私が「お寿司が好き。」と言うと、夕食にはお寿司のレストランに連れて行ってくれました。日本食が恋しくなっていたので、お寿司レストランで食べたお寿司や味噌汁はとても美味しかったです。また、そこで食べた「カリフォルニア・ロール」も、日本のお寿司とは違ってはいたけれど、それも美味しかったです。

お別れ会の前日は、彼女とお父さんの一人とユニヴァーサル・ハリウッドへ行きました。彼女とお父さんは年間パスポートのような物を持っていて、とても慣れているようでした。「ここはこんなアトラクションだよ。」「ここはこういうお店だよ。」と、いろいろ案内してくれました。乗りたい物には全て乗りました。さらに、私達は二人ともはハリー・ポッターが好きだったので、ハリー・ポッターのアトラクションには二回連続して乗りました。とても楽しかったです。ユニヴァーサル・ハリウッドではとてもリラックスできて、たくさん話しかけることができました。最初の頃のように後悔はしたくないので、言い方を変えてみたり、ジェスチャーを交えたりしながら話しました。私が一生懸命話すと、彼女も一生懸命に聞いてくれて、とても嬉しかったです。

バーバンクで過ごした二週間は、私にとってとても貴重な体験になりました。私はこのプログラムに参加できて、自分自身を少し変えることができたとも感じています。ホストファミリーを含めバーバンクで出会った人たちや、団長、副団長、11人のメンバー全員に感謝しています。

群馬県立中央中等教育学校 3年男子

僕はホームステイという形が初めてで、最初はとても不安だった。しかし、現地の人の温かさや周りの日本人に支えられて、楽しく過ごすことができ、無事に帰国することができた。この二週間に学んだことはたくさんあるが、主に二つのことを挙げたいと思う。

一つ目は、自分の英語の力が確実に上がったことである。バーバンクに行く前は自分の英語が伝わるか、また、現地の生の英語をうまく聞き取れるか不安だった。しかし、行ってみるとホストファミリーをはじめ、現地の人々は僕たちを温かく迎えてくれた。最初は、ホストファミリーの会話に入れなかったが、だんだんと会話に入ることができて、一緒に会話を楽しむことができた。また、現地の方とたくさん

話しているうちにだんだんと聞き取れるようになった。そして、ホストファミリーの方たちと積極的にコミュニケーションをとれるようになってきて楽しくなった。英語で二週間過ごしたこの経験をこれからの英語の学習の時に活用したいと思う。

二つ目は、異文化を理解できたことである。もともと異文化に興味があり、知ってみたいし日本の文化を広げたいという気持ちがあった。学校では異文化について調べる事が多く肌で感じてみたいと思った。日本では見る事ができないような光景がいくつもあった。例えば、食事やマナー、ルールなどが違った。朝ごはんはシリアルがよくでて、夜ご飯は外食がとても多かったように感じる。日本の平日の夕食は家で食べることが多いが、アメリカでは外食ばかりで驚いた。また、道路が日本より広く良いと感じた。このように、日本とアメリカの違いを肌で二週間も感じる事ができて、異文化理解がしやすく、貴重な体験だった。アメリカの文化も知ることができた。また、日本の文化もアメリカの人たちへ自分なりに教えることができたと思う。特に日本語を多く教えた。アメリカの人たちが日本語を学ぼうとしている姿がとてもうれしかった。実際に異文化交流をすることによって、それぞれの文化をお互いに理解することができたと思う。学校で調べる情報より多くの文化、また詳しいことを知ることができた。だから、学校の友達などに異文化について紹介したいと思う。また、他の国の文化も肌で感じてみたいと強く思った。

バーバンクに行って普段できないような様々な体験をすることができた。この自分の体験をまずは学校の友達など周りの人たちに伝えていきたいと思う。そうして、交換学生の事業をみんなに知ってもらって今より多くの学生たちが興味を示し応募してほしいと思う。この二週間の思い出と様々な経験を忘れずに、必ず将来で生かして今後生きていきたいと思う。

もし自分にまた、このような機会があったら積極的に参加をしてみたいと思う。次行くときは、英語をもっと話せるようになって多くの外国の人々と交流をし、日本の文化をくわしく説明したいと思う。そして、その現地の文化を聞いて理解し、それをまた周りの人に発信していこうと思う。

ぐんま国際アカデミー中等部 3年男子

私にとってのアメリカは、テレビの中の世界であり、憧れの場所です。

両親からこの交換学生派遣事業について初めて聞いた時、「アメリカなんだ、行きたい！」と強く思いました。私は小学生の頃から学校から戻るとテレビをつけ、アメリカのドラマを観る事が好きでした。自分と同じ年頃の子達がちょっと驚く様な日常を繰り広げている世界。それはテレビドラマの中での世界ですが、日本とは違う何か別の世界があると私に感じさせてくれる機会でした。

今回本事業に参加出来る事となり、事前オリエンテーションでの学習や自分なりのリサーチで、太田の姉妹都市であるバーバンク市は、ディズニースタジオをはじめ多くのドラマ制作スタジオがある事が分かりました。私がテレビドラマを通じて触れ、そして憧れているアメリカの文化を形作っている街、バーバンク。そこで「アメリカの文化を学びたい」、そして「自分なりに太田市についてその魅力を紹介したい」という気持ちを持ち、出発の成田空港に着く前から私は興奮していたと思います。

バーバンクに着いてからの2週間は夢見心地であり、駆け足の様にあっという間に過ぎてしまいました。引率をしていただいた岡本団長並び半田副団長は、私達が心配なく生活出来るよう色々と心配り

をして下さりました。又この事業に関わる皆様のおかげで、毎日の活動は非常に充実した物でした。その中でも個人的に印象に残っている活動は、ディズニースタジオへの訪問です。

ディズニースタジオでは幾つもの世界的に有名は作品を生み出して来た制作現場の裏側を見る事が出来ました。巨大な制作スタジオに、そこを行き交う照明器具や大道具と思われる物。忙しそうに早足にて通り過ぎていく従業員の方達。全てがそこから始まったという、小さなバンガローと呼ばれる建物。バンガローと同様にディズニー創成期に使われていたカメラ等々。その歴史を大切にしている姿勢には、どこかスバルの工場と似た所を感じました。

又、大好きなディズニースタジオでの経験と同様、若しくはそれ以上のインパクトとして、2週間のバーバンク滞在中に常に感じた事は、アメリカ文化の多様性です。

バスでの移動中に見える道行く人々、そして景色は、それぞれに異なる文化的なバックグラウンドが伺え、それだけでも楽しいものでした。常に新しいもの、刺激に出会える様な期待感。多様性がアメリカ社会を華やかな物にしていると感じました。

そしてその多様性の根本を支えているのは、現地の方々のフレンドリーな姿勢ではないでしょうか。自分のホームステイ先の方はもちろんですが、バディとして一緒に活動してくれた皆さん、そして街ですれ違う方々も、皆私達に声を掛けてくれました。特にバディとして参加してくれた現地の学生の皆さんとは、多くの話をする事が出来ました。

積極的に現地の方々とコミュニケーションを取る事は、今回の事業における最大の目標でしたが、正直自分の語学力が通用するのか、不安な点もありました。その不安な気持ちから、自分から話しかける事を怖いなと着いた当初は思いました。しかしながらバディの皆が積極的に話し掛けてくれる事により、いつの間にか最初に抱いていた不安な気持ちは消え、皆と話をする事が本当に楽しいと感じる事が出来ました。そしてその経験より、言葉がいかに重要であるかも分かる事が出来ました。

育った環境、文化の違い以前に、話を始めなければ相手の事は何も分からない。それは至極当たり前の事です。でも普段の生活の中でその事を意識する事は、全くと言う程ありませんでした。今回自分が非日常的な世界に飛び込む事で、言葉の持つ力、相手の事を知りたい、分かっていたいという欲求、そして自分について伝えたいという気持ちを知る事が出来ました。異なるバックグラウンドを持つからこそ、多くの言葉を費やしお互いをわかり合う為に努力をする事が重要なのだと知る事が出来ました。

今回この様な貴重な体験をさせていただいた太田市並びに太田市国際交流協会の皆様、そしてホストファミリー、バディ、バーバンク市の皆様には、心から御礼申し上げます。夢の様な時間をありがとうございました。

ぐんま国際アカデミー中等部 3年男子

僕はこの姉妹都市交換留学で、様々な体験をし、沢山の事を吸収して日本に帰国しました。毎日が初体験の連続で、印象深く、とても内容の濃い2週間でした。

感想は一言で言うと、予想を遙かに上回るほど、楽しかったです。始めは、少し不安な部分もありました。英語には不自由ないと思っていましたが、個性的な団員が多い中、助け合っていけるのかとか、ホストはどんな人なのかとか、何個か不安材料は行く前からありました。しかし、いざ現地についてみ

ると何も不安になることはありませんでした。ホストは優しく、人一倍自分の事を気遣ってくれて、何不自由なく毎日楽しい生活でした。また、団員たちも各々が周りを気遣い、協調性に溢れていました。特に高校生の団員さん達は積極的に中学生と会話していたのを憶えています。また、全員が全員、英語が得意ではないとは言え、とても積極的にバーバンクの人達と話していたのが、印象的でした。

僕はこの留学中、自分は中学生のリーダーとして何が出来るのか、と言うのを考える機会が多かったことを憶えています。例え、高校生のリーダーさんが主として、団員をまとめてくれているとは言え、リーダーという肩書きが自分についている以上、何か団員を助けなくてはと言う思いがありました。そんなある日、ホストの人たちとプールパーティーをする日がありました。その時、団員二人ほどが泣いてしまうという事案が発生し、ホストの子供達がとても心配していました。いつもであれば、リーダーさんか、サブリーダーさんが対処しているのですが、その時は両者共に対処出来ない状況で、ホストの子供達に心配をかける一方でした。この時僕は、自分に何が出来るのかを必死に考えました。結局思いついた先は通訳でした。自分には英語という武器しかないので、その場を英語で盛り上げるという策しかありませんでした。また、他の団員からも盛り上げ役を頼まれました。英語が流暢でも話す内容がなければ、心配をかける一方、不安しかありませんでしたが、いざホストの子供達に話しかけてみると、以外と話が広がるものです。盛り上げるとまでは行きませんが、彼らの注意を団員達からそらすことは出来たと思います。そのこと以上に僕は、意外と自分にも活躍場所があるのだと確信し、それ以降自分の出来る限りの手助けは、団員にも、ホストにも、また団長にも出来たのではないかと思います。自分の今までの、留学や海外渡航、日常生活の英語の蓄積が、生かせたのだと思います。自分に自信を持つことで自分の真の力が発揮される、自信というものがどれ程、力を持ち、どれ程、影響を与えるのかを知れたのはこの経験からだと思います。

この留学では意識して学ぼうと思ったことはありませんでした。印象に残ることや、大切なこと、また何気ない日常の一コマが吸収され、それが知らぬ間に自分の一部となっていたのです。文化や思想、自分が現地で聞こうとしたものは、聞かずして、日常生活の中から理解でき、それ以上に現地の人達と話した会話の一部などの方が、より内容が濃く、印象深く、また自分が周りに教えたいようなことなのです。そういうことを沢山吸収したことが、一番思い出に残り、本当「学び」だと思いました。

最後に、このような経験を出来たことがとても嬉しく、とても感謝しています。この経験を今後の生活に活かしていきたいと思います。

群馬県立太田高等学校 1年男子

最初に、この派遣事業を通して僕は様々なことを学び、何にも代えがたい経験を得ることができました。

僕は今回、海外に行くこと自体が初めてだったため、出発する前はとても不安でいっぱい、「自分の英語が通用するだろうか。」「現地での生活に慣れることができるだろうか。」と聞いていたのですが、いざ実際に行ってみると、現地のホストファミリー達は僕たちをものすごい勢いで歓迎してくれました。最初、ホストファミリーが話す英語にうまくついていけず、びっくりするとともに自分の英語力のなさを

思い知らされましたが、現地の人々は自分の話を嫌な顔せず最後まで聞いてくれてとてもうれしかったです。

一日目の夕方にホストファミリーの家に案内してもらった時、僕のために細かく説明してくれてすぐに家には慣れることができました。しかし、アメリカの「シャワーだけを浴びる。」という文化には、15年間、湯舟を使って生活してきた僕にとっては新鮮な部分でもあり、大変な部分でもありました。また、僕はアニメや漫画が大好きで、偶然にもホストシスターとホストブラザーも日本のアニメや漫画が好きだったので夜は一緒にアニメを見ながらお互いたくさんしゃべりました。こうして日本の文化が世界に広がっているのを実感できてとてもうれしかったです。そして、その夜はぐっすり寝ることができました。

次の日からはバーバンクやロサンゼルス施設見学などが続きました。バーバンク市はテレビの会社や映画の製作スタジオが多くある「メディアの町」であり、それらの施設をいくつか見学しました。実際、街を歩いていると、映画のポスターがいたるところに飾られており、太田にはない魅力を感じました。また、見学時は他のメンバーやホストファミリーと一緒に行動したので、みんなと交流しながら楽しく見学することができました。中でもディズニースタジオは、一般の観光客が入れない施設であり、見学中は貴重な時間をしっかりものにしようと積極的に質問しました。

また、ファミリーデーにはアメリカに行く前から行ってみたいと伝えてあったグリフィス天文台に連れて行ってもらいました。僕は宇宙が好きで学校では天文部に所属しているため、つい長い間滞在してしまいました。ほかにもホストファミリーには様々なところへ連れて行ってもらい、そのたびにバーバンクや、アメリカのことについてたくさん教えてもらい、いつしか英語もうまくなっていました。ホストマザーからは「最初に比べて、ずいぶん英語がうまくなったね。」とほめてもらいとてもうれしかったです。

ちなみに、この派遣事業の中には現地の人たちとの遊びを通して交流する場面も多々ありました。そういう場面において、最初のうちは緊張しておそらく現地の人たちともあまりしゃべらなかったであろう僕が、そういうこともあって、しばらく過ごすうちに抵抗なく話すことができるようになっていました。これには自分でも驚きました。

他にも本当にたくさんの貴重な体験をこの2週間でしました。しかしすべて書くにはスペースが足りないのでまとめたいと思います。

今回の派遣事業を通して最も強く感じたこと、それは自分の成長です。もしこの派遣事業に参加しなかったら僕は海外になんか興味を持たず、もしかしたら一生日本から出ないままだったかもしれません。しかし、僕はこの事業のおかげで自分の視野が広がり、たくさんのものに目を向けられるようになりました。こんな素晴らしい経験をさせてくれた感謝と、バーバンクで受けた感動を忘れず、この経験をこれからの生活に活かしていきたいと思います。

感謝

太田市立太田高等学校 2年女子

私が15日間のバーバンク研修を終えて、まず最初に浮かんだ言葉です。私がこの研修に応募することを誰よりも応援してくれた家族。このような機会を与えてくれた清水市長と太田市役所、国際交流協会の

方々。不安な時に支えてくれた引率者の方々。手厚いサポートで迎えてくれたバーバンクの現地の方々。不安だった私を優しさでフレンドリーさで包み込んでくれたホストファミリー。そして、研修を何よりも楽しい思い出にしてくれた最高の11人の仲間達。たくさんの方々に心から感謝を伝えたいです。ホストファミリーが私の話を一生懸命理解しようとしてくれたり、何かを手伝ってくれたりとは私はバーバンク市滞在中にも感謝を伝えたくなくなった時が度々ありましたが、私は毎回「Thank you!」としか返すことが出来ませんでした。“もっともっと感謝を伝えたい”、“自分の気持ちが伝わってほしい”、“自分が感謝を伝えたい理由も知って欲しい”その気持ちはバーバンクでの私の向上心の源となりました。また、考えていることを思っているように伝えることのできない大変さと悔しさを改めて実感しました。

ホームステイ中、“これは日本では何て言うの?”、“こういう時日本ではどうするの?”、“日本の〇〇って〇〇なんでしょ?”など、バーバンクのホストファミリー達は私に日本の文化や歴史についてたくさんを質問してきてくれました。最初は上手く答えることができるかが不安で戸惑いましたが、“こんなにも日本のことを知ろうとしてくれているんだ”ととても嬉しかったことを覚えています。私はそれと同時に、日本のことをたくさん知って欲しいとさらに強く思うようになりました。

現在の日本はグローバル化が急速に進み、大勢の多国籍の人が日本にやってきます。2020年には東京オリンピックが開かれることで、ますます外国人の方々と接する機会が増えると思います。私は、自分がアメリカに行った時に現地の方々が積極的に話しかけてくれた事が本当に嬉しかったし、安心しました。私もそのような対応ができる人間になりたい。困っている外国人が居たら、率先して助けてあげたい。アメリカで優しく対応してくれた恩返しをしたいです。まだ高校生である私にできることは小さなことかもしれませんが、さらに語学力に磨きをかけて、市長さんも仰っていたような「太田市とバーバンク市の架け橋」「日本とアメリカの架け橋」に少しでも貢献できるような人間になりたいです。

私がこの2週間の研修で学んだことは大きく2つあります。「感謝」と「優しさ」です。当たり前のことかもしれませんが、生まれ育った日本を飛び出して辿り着いた異国の地で、改めてその大切さに気付かされました。感謝されたり優しくしてもらおうと嬉しくなり、自分も返したくなる。これは、きっと世界共通に違いありません。今回の研修で出会ったバーバンクの学生達にも本当にたくさんの感謝があります。帰国後も彼らとはLINEやInstagramで連絡が続いています。正直、ここまで親しく近い関係になれるとは思っていませんでした。ですが、何千キロも離れている海外の彼らと友達になれたことは本当に一生の宝物です。彼らが日本にやってくる機会があるのならば、必ずまた会いたいです。そして、このような関係を築けたことをきっかけに、さらに日本国外の文化や現在の状況に目を向けてみたいです。

最後に、楽しい時は全員ではしゃぎ、困った時や心細い時はいつも傍にいてくれて励ましてくれた11人の仲間達。本当にありがとうございます。最高の体験をありがとうございました。

群馬県立太田女子高等学校 2年女子

初めての海外という事で、とても緊張しました。

飛行機の中は、思っていたよりも安心して旅をスタートすることができました。アメリカのロサンゼルス空港についた時は、日本と景色も話す言語も違ってすべてが新鮮でした。到着した日は、日本語も話せる人がいて、とても安心しました。ホストファミリーはとても歓迎してくれていて、とてもうれしい気持ち

ちになりました。急にバーバンクの市役所で1人ずつ挨拶をしてと言われた時は、とても緊張しました。でも、少し間違えても盛大な拍手をしてくれて。とても良い人ばかりでした。バーバンク市の市長さんも頑張って日本語で話してくださり、少し緊張がとれたような気がしました。家に帰ると、好きな食べ物を聞いてくれて、ハンバーガー屋さん連れて行ってもらいました。大きくて驚きました。

ホストファミリーの友達にたくさん会わせてもらって、その友達とご飯を食べに行きました。やはり、アメリカ人はフレンドリーだと言う印象を改めて持ちました。

私のホストファミリーは、両親とも働いていて、夜しか会う機会がありませんでしたが、とてもアメリカでの生活の事を心配して下さっていることが伝わり、少しでも過ごしやすくなるように、気を配ってくれました。洗濯物を洗ってくれたり、朝食も毎日違うものを準備してくれたり、とても快適に過ごすことができました。

日中は日本と代表のバーバンク市の方々とは様々な場所に行きました。すべての場所がとてもきれいでした。その中で、現地の方が「写真を撮ろうか？」と親切に話しかけてくれたので、楽しく、片言の英語でも1日1日を楽しく過ごすことができました。1日目以降、日中の行動が終わると、アメリカの大型ショッピングモールやネイルサロンに連れて行ってもらいました。その中でも、特に楽しかったのは、夜に女子6人でボバ屋さんに行ったことです。ホストファミリーは、日本人の私たちが一人ではなく、一緒のアメリカに来た日本人も誘って、買い物やカフェなどに連れて行ってくれたので、とても心強かったし、めいっぱい楽しむことができました。また、ホストファミリーはクリスチャンだったので、最後の日に教会に連れて行ってもらったのも印象的でした。まず、日本で教会を見かけることが少ないので、建物はとてもきれいで中も初めて見るものがたくさん飾ってあって、とても良い経験になりました。そしてなによりの「思い出」は、ディズニーランドに行ったことです。班決めでとても時間がかかってしまい、メンバー全員がとても心配していました。ですが、何とか当日までに、全員が納得できる班を作って、行動することができました。夏休み中ということもあり、とても混雑していると予想していましたが、日本よりも全然空いていて、驚きました。また、ディズニーランドといっても、日本よりも広く、また、日本にはないアトラクションもあって、約12時間の間に、アメリカディズニーランドを満喫することができました。

バーバンク市の人たちと一緒に行動していくうちに、出会った日よりも自分から積極的にコミュニケーションがとれるようになったことを、実感できました。2週間という、行く前は長いと思っていた日々も、行ってみるととても短くあっという間でした。以前の私は、英語がとても苦手でしたが、この交換学生としてアメリカに行ったことで、英語の苦手意識がなくなりました。英語の必要性を実感したことにより、やらなければいけない英語の勉強をしようという意欲が湧いてきました。ぜひ、この貴重な体験を、これからの人生に最大限に活かして生活を送っていきたいです。

ぐんま国際アカデミー高等部 2年男子

小学生の時から家族でバーバンクの生徒を受け入れていて、自分の姉も6年ほど前にバーバンクに行かせてもらいました。自分にとって昔から親しみのあるプログラムで、このプログラムがあることは知っていました。中学になってバスケット部に入ってなかなかまとまった休みもなくなかなかバーバンク

留学に申し込むこともできませんでした。高校2年に上がって母親に声をかけられ申し込みを決断しました。

去年バーバンクからの高校二年生自分とちょうど同い年の学生を受け入れました。彼はアメリカンフットボールをやっていたため、アスリートという面で自分と境遇がとても似ていて短い期間でもとても仲良くなりました。彼がバーバンクに帰る際、今度は自分が彼の家ホームステイする。と、言う約束をしました。彼にまた会うためにも自分にとって最後のチャンスに挑戦しました。彼の家に着いて、お母さんともあって自分が家族の一員かのように接してくれました。彼は一週目のホストファミリーでした。彼はアメリカンフットボール部に所属していたので、平日はプログラムに参加できませんでしたがその分夕方にはのんびりとテレビを見たりしていました。平日のプログラム中はサラ、マテューの双子の兄妹と過ごす時間が多かったです。マテュー君は地元ロサンゼルスチームロサンゼルスレイカーズのファンで、自分もレイカーズファンだった事もあってプールパーティの日に意気投合していつも一緒にいました。自分は今回の研修で出来るだけ日本人という事より勇気を出してアメリカ人学生と楽しむという目標がありました。二週目ではウォータポロをやっているマヒューの家にホームステイしました。家には大型犬のシェパードがいました。自分も大型犬のゴールデンレトリバーを飼っているの、愛犬がない悲しみは無くなりました。彼は地元のジムの中のプールでライフガードのアルバイトをしていたので、三回もジムに連れて行ってもらいました。留学が終わったらすぐにバスケット部に戻らなければならない自分にとっては良い運動になりました。アメリカのジムでウエイトをして、小さなジムにも関わらず、普段自分が使っている太田市民体育館のウエイトルームよりも器具があり、いろんな人が体を鍛えていて日本との運動への意識の違いを感じました。

他の日本人学生とみんなで余興の練習をして太田市の他の学生と交流を持ち。二週間の間現地の学生の方々と交流を持ちとてもいい経験になったと同時に忘れられない思い出になりました。将来、留学をしてアメリカの大学に入学したいと考えている自分にとってとても貴重な経験になりました。これからは、太田市とバーバンク市の関係がより強固なものになるよう事業などにも参加したいと思っています。

ぐんま国際アカデミー高等部 2年女子

7月23日、学校の友達より2日早く私の夏休みが始まったこと、そして何よりこれから二週間バーバンクに行けることに、私は胸を高鳴らせていました。梅雨の日本から飛ぶこと約10時間。カリフォルニアのキラキラした太陽が私たちを出迎えてくれました。空港からバーバンクまでのバスでは、疲れていたにも関わらずワクワクで一睡もできませんでした。ガイドさんの軽快なトークに胸を弾ませながら、ロサンゼルス街並みを眺めていたらあっという間にウェルカムパーティーの会場に到着していました。

パーティーで初めて対面したホストファミリーは、2家族ともニコニコしながらあなたがステイするのがとても楽しみ、と話してくださって、とても嬉しかったのと共に安心したのを覚えています。ホストファミリーは、私にたくさん質問をするなど積極的にコミュニケーションを取ろうとしてくれて、そのおかげですぐに打ち解けることができました。また、ステイ中に私はそれぞれの家庭で日本から持参したタレを使ってやきとりを振る舞ったのですが、とても好評で、また日本料理に興味を持ってくれたので嬉しかったです。現地での日程は毎日が新鮮で、貴重で楽しい体験の数々でした。市役所や消防署、

警察署は日本のものと建物もシステムも違って興味深く、普通はなかなか立ち入ることのできないニコロデオンのスタジオ見学では幼い頃から親しんでいたスポンジボブの製作の一片を垣間見ることができました。その中でも私が最も楽しみにしていたのが、ウォルトディズニースタジオです。小さい頃からディズニー作品が好きだった私は、一度は訪れてみたいと昔から思っていたのですが、一般には公開されていないので一生無理だと半ば諦めながらも憧れていました。今回行けると分かった時はとても興奮し、ずっと見てみたかった白雪姫に登場する 7 人の小人が支えるデザインの建物を実際に見た時は感動で言葉が出ませんでした。他にも、ロサンゼルスにある美術館や博物館、UCLA やダウンタウン LA を散策するのもとても楽しかったです。サンタモニカでは、ピアにある有名な観覧車に乗ったら日本の観覧車と大きく異なっていて驚いたり、友達と海ではしゃいだり、またみんなで行動する最終日に行ったディズニーも、夜の 10 時まで存分に楽しみました。

夕方やファミリーデイにはホストファミリーとの時間を楽しみました。付近の有名な観光スポットに行ったり、家でのおんびりしたり。過ごしているうちにライフスタイルには私のものといくつも相違点があることに気づき、中でも食事は全く違いました。私の家庭では、毎食母が料理してくれるのですが、ホストファミリーのうちは外食かテイクアウトがほとんどで、全然キッチンを使いませんでした。アメリカの女性に比べて日本の女性は家事などで多くの負担をしているように感じ、このような生活が、日本よりも女性の社会進出が進んでいることに影響しているのではないかと考えました。

ホストファミリーと過ごした時間の中で、特に思い出深かったのが 1 週目のホストファミリーのニコルたち一家のおじいちゃんおばあちゃんの家遊びに行っただけです。おばあちゃんは私を歓迎して、たくさんの美味しい料理に、デザートには大きなラズベリーシフォンケーキまで作ってくれて、また、おじいちゃんには私の名前を彫った手作りの木のバッジをいただきました。二人とも私を心から歓迎してくれているのが伝わってきて、とても嬉しかったです。夕食の後にはみんなでトランプゲームをして、まるで家族の一員になったような気分を味わえました。ホームステイだからこそできたこの体験は普通の観光旅行では味わえないとても素敵なものでした。

バーバンクでの二週間は、今までで一番充実した日々でした。この素晴らしい機会をくださった、太田市、バーバンク市、ホストファミリー、また仲間たちと家族など関わってくれたすべての人にたくさんの感謝をしたいと思います。そして、いつか必ずバーバンクに帰りたいです。